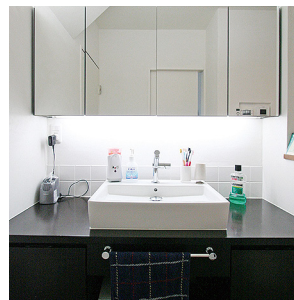
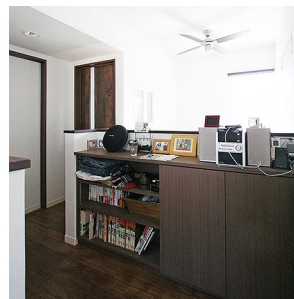


「今まで見た家とタイセイホームの家は全然違ってました。」
 「嫁さんに喜んでもらうための家でもあるから。」



Come Home Story

ご入居後の
 お宅訪問
 No.036
 カムホームストーリー
 高知市・情熱山ちゃん邸
 竣工:2012年10月
 設計担当:川口 恵里奈



「残せる家をつくりたいと思って」

お客様の家づくりをサポートする、タイセイホームスタッフの情熱山ちゃんこと山本。10年間、思いをあたためてきた「自分の家」を新築してから、約3年6ヶ月が経ちました。山ちゃん一家は、奥さまと高校1年生の男の子、小学校4年生の男の子、2歳の女の子の5人家族です。真ん中のお子さんには軽い障害があり、「息子の人生を考えた時に、自分で家を建てられないかもしれないから」と山ちゃん。子どもたちに残せるものは何かと考えた時、「残せる家」をつくりたいと思って」と奥さまも同じ思いで家づくりを決意しました。タイセイホームに転職したばかりで「あの頃はお金のことも何も分からなかった」と、不安なことも多く、すぐに岡村(お客さまサポーター)へ相談をした山ちゃん。「転職したばかりでも借入れできる銀行があると思うから、調べてみたら?」とアドバイスを受け、仕事の勉強をしながら、自身が「お客さま」の立場として家づくりの勉強を重ねました。ようやく巡り逢えた土地は、大きなスーパーも病院も近く、車通りも少ない、障害をもった子どもが安全に暮らせる場所。「自分の年齢のこともあるし、この出逢いがなかったら家は建てられなかったかも」と、思い入れの深い家づくりを振り返ります。

「人を呼べる家=収納できる家」

「今まで見た家とタイセイホームの家は全然違ってました」という奥さまは、シンプルでカッコいい雰囲気が好み。自然素材の家は考えていませんでしたが、身体に与える影響や金銭的なこと、メリットデメリットの話を知ることになった「ちゃんと納得できた」と言います。いずれ劣化してしまう素材ではなく、使うほどに味わいが増す天然素材。子どもの世代、孫の世代へと「残せる家」となり、価値のある自然素材の家を「本当に選んで良かった!」と、大きくなすきます。「嫁さんに喜んでもらうための家でもある」と話す山ちゃんは、家づくりのほとんどを奥さまに委ねました。広く見ること、明るくこと、たくさん収納できて隠せる収納、というのが奥さまの希望。家と家との距離が近い密集した住宅地でも、窓からたくさんの光が入るように吹き抜けをとり、広く見せるために内装全体を白と茶色のみで統一しました。圧迫感のないシンプルで開放的な空間が広がっています。キッチン背面の引き戸収納が「押入れみたいで嫌だった」という奥さまでしたが、「動線も邪魔しないし、スメてくれて本当に良かった!」と大満足のご様子。近所の集まりでホームパーティーをすることが多いという山ちゃんご一家では、「人を呼べる家=収納できる家」でないと片付けられないと奥さま。「物は多いはずなのに、この収納でちゃんと収まっている」と、暮らすほどに愛着の湧くわが家となっています。

「少しでも多く、同じ子育て世代のご家族にこんな生活(人生)を手に入れてほしい」

「使ってみて分かった」と話すのは、カッコ良さを重視した洗面台。スッキリしたフォルムで浅めのボールを選んだため、「子どもが勢いよく出した時に水が散る」と言います。毎日使う場所は使い勝手が大事だと、奥さまからのアドバイスです。「自分がこうしたいっていう希望をじっくり聞いてくれた」という川口(設計コーディネーター)との打合せ。回数を重ね、時間をかけて選んだものだからこそ「愛着もあるし後悔することも少ない」と、オーダーメイドの家を大事にしてくださいと奥さまです。室内に使った調湿効果のあるしっくい塗りの壁には、抗菌・消臭、有害物質を吸着する効果などがあり、身体にやさしい住まい。また、タイセイホームが勧めるセルローズファイバー(断熱材)を使った山ちゃん家では、冬の朝、一階へ降りて来ても寒くないと言います。吹き抜けがあってもファンを回していれば十分に家中が暖まり、地球にも家計にもやさしいエコ住宅。自社の商品を自身の肌で感じ、本当に良いものだから勧める。少しでも多く、同じ子育て世代のご家族にこんな生活(人生)を手に入れてほしいと願う山ちゃんです。